

今週（5月29日から6月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、2日に法人税・年金保険料揚げや普通交付税の払いなどの大きい資金需給要因があったものの、落ち着いた取引に終始する展開となった。

日銀当座預金残高が概ね350兆円前後で推移する中、無担保コールO/N物は、先週対比でレートが低下した。週初3日間は、地銀業態からは▲0.06～▲0.05%、証券業態からは▲0.07～▲0.06%近辺、都銀・信託業態からは▲0.086～▲0.075%の調達希望となった。月が変わった1日からは、一部の先で取り上がる動きが見られたものの、全体的な調達需要の弱さには変化は無く、レート水準は僅かな上昇にとどまった。無担保コール市場残高は7兆円前後で推移した。ターム物は、引き合い自体がやや閑散であり、1W物程度のショートタームを中心に▲0.04～▲0.03%の出合いが散見された程度であった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、1日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額1,950億円（期落ち額1,840億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは月末を跨ぐ取引では若干レートを下げたものの、それ以外では投資家・業者ともに資金調達ニーズが厚く見られたことでO/N・ターム物共に、概ね堅調に推移した。

週初29日のT/Nは先週末の地合を継いで▲0.08～▲0.075%程度の出合い。S/Nは月末受渡にあたることから、投資家の一部がオファーを引き、▲0.10%前後の出合いとなった。翌30日は月末要因が無くなったことで投資家のオファーが再び入り、レートは上昇して▲0.075%程度の出合い。その後は週後半にかけて短国3M物の発行や日銀による国債・短国買入オペが行われたものの、レート水準に変動は無く、▲0.07%台の出合いを続ける事となった。

SCについては全体的にビッドの入りか少なく、資金調達ニーズも堅調なことからGC・SC間のスプレッドも小さくなっている。個別銘柄は5y 130～131、10y 334、336、343～346、20y 160、30y 50～54などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週を通して閑散な中、軟調な展開が続いた。

1日に実施された3M物の入札では、WI取引で▲0.12%の出合いが見られる中、結果は平均落札利回▲0.1218%、按分落札利回▲0.1162%と順調な入札となった。その後のセカンダリーでは、▲0.12～▲0.116%で出合いが見られた。

2日に前回と同額の5,000億円でオファーされた短国買入オペは、平均落札利回較差+0.001%、按分落札利回較差±0.000%と落ち着いた結果となった。

28日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「6月末の残高を27～29兆円程度とすることをめどとして、金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表された。5月末の日本銀行の国庫短期証券買入残高（金融機関からの買入残高）は29兆5,917億円と見込まれ、その内6月中に償還を迎えるものは4兆8,379億円であることから、6月に実施される短国買入オペは合計2.5～4.5兆円程度と予想される。

●CP市場

今週のCP市場は、税手当・賞与対応等の5月末日発行が1兆円に膨らんだ。このため、週間発行総額は、1兆3,400億円弱となり、償還総額の1兆2,200億円程度を上回る活発なマーケットとなった。発行は多かったものの、引き続き投資家の運用ニーズは底堅く、発行レートは大部分が0%近辺で決着した。期越え物では、浅いマイナス圏での決着も散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
5/29 (月)	19,682.57	0.035	111.35	△ 0.061	△ 0.074	3,498,500
5/30 (火)	19,677.85	0.035	110.85	△ 0.061	△ 0.082	3,515,200
5/31 (水)	19,650.57	0.040	110.95	△ 0.065	△ 0.073	3,516,900
6/1 (木)	19,860.03	0.050	111.00	△ 0.060	△ 0.071	3,504,100
6/2 (金)	20,177.28	0.049	111.63	△ 0.059	△ 0.069	3,469,000

来週（6月5日から6月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/5 (月)	6月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				4月の米製造業新規受注・出荷・在庫 5月のISM 非製造業景況指数 5月のFRB 労働市場情勢指数
6/6 (火)	4月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	30Y 8,000億円 6/20発行			
6/7 (水)	5月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 4月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 29,000億円 6/12発行	交付税借入 10,500億円 6/16借入		4月の米消費者信用残高
6/8 (木)	1-3月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 4月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 4月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 5月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 44,000億円 6/12発行	5Y 22,000億円 6/20発行		ECB定例理事会(金融政策発表) 1-3月期のユーロ圏GDP確報値
6/9 (金)	5月のマネーストック(日銀 8:50) 4月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	エネルギー 対策借入 7,000億円 6/20借入			4月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/5 (月)	1,200	3,300	4,500	全店共通 CP買入 国債補完 成長基盤	▲ 1,800 ▲ 900 100 ▲ 100	2,000	▲ 700	3,800	TB3M発行▲44000 償還43400
6/6 (火)	1,000	1,000	2,000	国債買入 短国買入		11,300 5,000	16,300	18,300	
6/7 (水)	0	2,000	2,000				0	2,000	
6/8 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
6/9 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000	CP買入		3,500	3,500	4,500	預保借入▲900 期日1000 交付税借入▲10500 期日10500
週間合計	1,200	6,300	7,500	—	▲ 2,700	21,800	19,100	26,600	

6/5は日銀予想、6/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大きな資金需給要因が無い。積み期間後半に入ったことで、調整の取りが徐々に出てくると予想されることから、無担保コールO/N加重平均レートは僅かに上昇することも考えられる。

短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札が予定されている。短国買入オペが減少する中、積極的な買い手も見られないことから、落札レートは横ばいか小幅上昇となることが予想される。9日に実施されると見込まれる短国買入オペのオフア額は7,500~10,000億円程度を予想する。

CP市場は、6日にCP買入オペのオフア（9日買入）が、3,500億円（前回比+1,000億円）予定されているが、6月の賞与の支払などを控えて、発行残高が大幅に増加しており、レートは読みづらい状況にある。

主要なイベントとしては、8日の1-3月期の国内GDP2次速報、ECB定例理事会、イギリス総選挙などが挙げられる。また、2017年6月~8月の積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が9日の17時に公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。